



JR東日本の定例記者会見

BREAKING NEWS

安全性を脅かす相次ぐトラブルと不祥事は、

鉄道のプロフェッショナルとして過信!?

JR東日本は、10月8日(火)の定例記者会見において、この間の連結器が外れたトラブルとデータ改ざんの不祥事を受けて謝罪しました。

会見の中では「技術的な安全性は確認していた」と述べる一方で「品質管理やコンプライアンス教育の徹底」「各現場にも繰り返し訪問するなど、トップマネジメントの問題として対応していく」ことが報じられました。



今回の不祥事は、現場の違和感を受け止められなかった「経営の問題」であり「経営陣の意識変革」と「企業風土の再構築」が最優先事項でなければなりません。

経営問題に切り込めるのが労働組合です。企業風土と経営姿勢を糺し、安全で安心の輸送サービスが提供できる健全なJR東日本をつくり出そう！

TOKYO MAIL NEWS No. 092 / 2024.9.26

輸送サービス労組 東京地本 WEBSITE SNS

BREAKING NEWS

鉄道車両における輪軸の緊急点検
社員には速やかな正しい報告を求め、データ改ざんを公表せず！
鉄道輸送の安全確保の仕組みを根底から覆す「究極の安全」！

JR貨物の不正を受けて、国土交通省が全国の鉄道事業者に対して、鉄道車両における輪軸の緊急点検を指示していました。
点検を実施した結果、JR東日本では、過去約9年間、輪軸組立時のデータを改ざんしていたことが発覚し、24日より国土交通省の特別保安監査が行われています。

◆ 今回のデータ改ざんによる不正を受けて

JR東日本	国土交通省
社内の基準で安全が確保されていた。	鉄道輸送の安全確保の仕組みを根底から覆す行為であり、極めて遺憾。

「究極の安全」と「法令遵守」はどこに行った？

社内では、現場社員に「速やかな正しい報告」を求めている一方で、企業として「データ改ざん」の不正行為を認めつつも、その事実を公表しませんでした。現場社員の不信感は増して、薄層意識は低下しています。会社が「社内の基準で安全が確保されていた」とした説明は「JR東日本の常識は社会の非常識」と称されるように、憲法や法令よりも「組織の庇」を優先する歪な企業風土と徹底的な経営姿勢が事態を招いています。不正に至る経緯や公表せずにいた原因究明と再発防止を求め、公共交通の使命と責務が果たせる健全なJR東日本を取り戻さなくてはなりません。